

玉野三井病院



当院の沿革

玉野三井病院は、三井造船玉野事業所の従業員の健康管理を目的として、大正8年に開設しました。開設当初は造船所本館前の診療所でしたが、大正9年には和田地区に病院を新築し、内科・外科・眼科・産婦人科の4科で運営されました。昭和10年11月に現在地に新築病院を起工し、昭和12年1月から玉野三井総合病院として運営が始まりました。診療科目も最大11科目の診療体制でしたが、その後造船不況と会社合理化に伴い、昭和54年4月から病院を縮小し、病床数も減床して非総合病院となりました。現在、一般病床93床、療養病床50床、標榜診療科目としては内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・歯科・麻酔科の8科目です。

現在の診療体制と設備

現在、常勤医師11名、非常勤医師9名、常勤歯科医師1名、非常勤歯科医師2名が診療に従事しています。

す。内科は一般内科診療とともに人間ドック、脳ドック、各種検診、睡眠時無呼吸外来、訪問診療を実施しており、週に1度、榊原病院の医師により循環器外来を開設しています。外科は消化器外科を中心に一般外科を診療しますが、上部内視鏡・下部内視鏡検査を全て引き受けています。週に1度、岡山大学から非常勤医師を派遣していただき、大学病院とも十分に連携しています。整形外科は外来患者数も多く、岡山大学と川崎医科大学から非常勤医師を派遣していただいています。特に、川崎医科大学の医師により月に1度、人工関節を中心にした膝外来を開設しています。放射線科は常勤医師・非常勤医師各1名ですが、主にCT検査・MR検査のレントゲン診断をしています。眼科、耳鼻咽喉科は非常勤医師による診療となります。歯科は常勤医師1名に岡山大学より非常勤医師2名を派遣していただき、通常歯科診療とともに口腔外科領域の診断治療も岡山大学と連携しています。

全従業員数は常勤137名、非常勤25名の162名です。2階病棟は内科病棟、3階病棟は外科・整形外科・眼科・内科の混合病棟です。一般病床93床の内、10床を亜急性期病床として利用しています。また、南病棟は療養病棟として50床を有しています。病院4階には内視鏡室と内視鏡術後管理室があり、上部下部のNBI電子内視鏡（オリンパス）を使用しています。放射線科・リハビリ室・臨牀検査室は1階にあり、1.5TのMRI（シーメンス）・64列マルチスライスCT（東芝）・MMG（東芝）を導入しています。また、腹部・心エコー（東芝）、バセラ1500（フクダ電子）、ソモンスター、トレッドミルを検査室に設置して、循環器関連の検査、睡眠時無呼吸検査に運用しています。リハビリ室では3名の理学療法士により、入院患者並びに外来患者の理学療法を実施しています。レントゲン検査並びに採血検査は院内各末端よりオーダーされ、結果はPACSや院内LANシステムによって各病棟、手術室、内視鏡室、各外来デスクで即座に閲覧できるようになっており、業務の効率化に寄与しています。また、当院では院内薬剤部を有し、6名の薬剤師が外来並びに入院の薬剤管理をしています。

病院の方針と最近の診療実績

当院は企業病院ではありますが、

患者の90%以上が会社とは無関係な一般市民であります。求められている病院像は、会社職員の健康管理だけでなく、地域に根ざした安全で的確な医療を提供できる病院でなければならないと考えています。市民検診や会社検診、人間ドックなどの検診業務、救急医療を対象とした急性期医療、療養病棟における慢性期医療、また訪問診療による在宅医療を、通常の診療業務の柱として考えています。

外来患者数は過去5年の平均で年間延べ約10万4,000人、1日平均で約430人、一般入院患者数は年間延べ約2万1,000人、療養入院患者数で年間延べ約1万4,000人です。1日平均で一般が約57人、療養が約39人、合計で約96人です。上部消化管検査が年間約1,000例、下部消化管検査が年間約400例です。平均手術症例は外科・整形外科で全身麻酔症例約57例、腰椎麻酔症例約52例です。CT検査数は年間約3,800例、MR検査数は約1,800例です。入院・外来のリハビリ総数は年間延べ2万5,000人です。内科を中心にした訪問診療は、常時約

30件あり、年々微増しています。

病院の将来的展望

当院は岡山市より約20km南に位置し、車で一時間ほど移動すれば、大学病院をはじめ倉敷・岡山の主要中核病院を受診することが可能です。重篤な疾患や手術を必要とする疾病の場合、そうした中核病院の専門医の治療を希望される患者さんが最近増えています。そのため、外来患者数は年々増加傾向にありますが、入院患者数は減少傾向にあるという結果となっています。また、保険医療上、看護師比率の制限を受けていることと、実際の慢性的な看護師不足のために、所有ベッドの数だけ入院患者をとれないことも入院患者数の減少の原因となっています。こうした当院の人的危機は、看護師だけではありません。従来、当院の医師は岡山大学の各医局と強い結びつきがあり、人事はほぼ医局への要請によるものでした。現在、卒後新教育制度による医局の医師数の減少に伴い、ほとんど人事要請が無効の状態です。医師の補充や若返りの目途は

たちません。しかし、医師の高齢化は確実に進み、「恐らく後10年もすれば…」と考えると、事態は深刻なものです。現在のところ、この医師不足や看護師不足の有効な解決策は見当たりません。補完力のない病院が機能不全を起こす時期については、予断を許さないものがあります。

将来に大きな希望も展望もありますが、地域住民の必要とする医療を提供するためには、地域の要望に敏感に対応しなければならないと考えています。現在感じていることは、一次救急に対する対応、正確な診断能力の維持、そして今後増加すると思われる在宅医療への展開などです。造船所の歴史的、構造的な不況は改善する見込みはありませんが、企業病院として社員の健康管理並びに産業医的役割に関しても従来どおり頑張りたいと考えます。

平成24年9月受理

〒706-0012 玉野市玉3-2-1

電話：0863-31-4187 FAX：0863-23-2084

E-mail：mitsuihp@mes.co.jp

<http://www.tamano-mitsui-hp.jp/>